

## 「万葉古代学研究所彙報」

平成十六年度

二月 九日 尼崎市立立花公民館地域現代学講座で、井上さやか主任研究員（以下、研究員と略す）が「尼崎と万葉の世界①地域の万葉歌」を講義。

二月一四日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦主任研究員（以下、研究員と略す）が「天孫降臨神話①」を講義。

二月一六日 尼崎市立立花公民館地域現代学講座で、井上さやか研究員が「尼崎と万葉の世界②中継点としての尼崎」を講義。

二月二〇日 和泉市和泉シティプラザで、井上さやか研究員が「万葉よもやま話」と題して講演。

二月二三日 尼崎市立立花公民館地域現代学講座で、井上さやか研究員が「尼崎と万葉の世界③万葉の歌とところ」を講義。

三月 四日 ボランティア新年度研修で、松田信彦研究員が講師を務める。

三月 六日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信行日本大学教授）第五回研究会開催。中村順昭日本大学教授が

「越中守大伴家持と在地社会」を発表。

三月一四日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員が「天孫降臨神話②」を講義。

三月二五日 「万葉古代学研究所年報」三号を発行。  
平成十七年度

四月 一日 松尾光総括研究員が、副所長兼総括研究員に就任。

四月 九日（八月二〇日）和泉シティプラザ市民カレッジで「万葉集と遊ぶ」と題して、寺川眞知夫所長・松尾光副所長・松田信彦研究員・井上さやか主任研究員が、計一〇回講演。

四月二三日 「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」（奈良女子大学地域貢献特別支援事業）による歌碑

（二二〇番歌）の除幕式を執行。志野保則次長が参列。  
四月二五日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「舒明天皇の国見歌」を講義。

四月二七日 奈良県立高田高校の総合学習「やまと学」で、松田信彦研究員が講師として、「万葉文化とその周辺」を講義（ほかに五月十三日・同十八日）

五月二三日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「柿本人麻呂の天皇讃歌」を講義。

五月二九日 第二回万葉古代学研究所主宰共同研究「古代儀礼と

万葉集」の第一回研究会を開催。共同研究員は、研究所員のほか、鎌田東二京都造形芸術大学教授、嶋田義仁名古屋大学大学院教授、高橋孝信東京大学教授、辰巳正明國學院大學教授。

六月二二日 古事記学会平成十七年度大会（於・芦屋大学）で、

松田信彦研究員が「日本書紀における欠史八代の問題——本文の性格をとおして——」と題して研究発表。

六月一六日 尼崎市立武庫公民館の武庫市民大学で、井上さやか研究員が「万葉よもやま話」と題して講演。

六月二〇日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「山部赤人の風土讃歌」を講義。

七月 二日 第一二回万葉古代学研究所講座で、寺川眞知夫所長が「相聞歌における仏教的表現」を講演。

七月 九日 第一三回万葉古代学研究所講座で、松尾光副所長が「散りいそぐ恋人たち」を講演。

七月二一日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究員が「大伴家持の美景讃歌」を講義。

七月一六日 第一四回万葉古代学研究所講座で、井上さやか研究員が「万葉集と四季」を講演。

七月二三日 夏休み親子万葉教室の講師を、井上さやか研究員が務める。

七月二四日 夏休み親子万葉教室の講師を、松尾光副所長が務める。

七月二七日 延岡城址薪能実行委員会能楽入門講座で、井上さやか研究員が「能・葵上と女歌の歴史」を講義。

七月三〇日 海外研修員として沈琳氏が赴任。

七月三十日～七月三十一日 第四回夏期セミナーを開催。講師・演題は寺川眞知夫所長「人麻呂の羈旅歌」、松田信彦研究員「『日本書紀』の省略について」、東茂美福岡女学院大学教授「憶良の帰去来——あたらしい作家論への試み——」、松尾光副所長「大伴家持と政争」、井上さやか研究員「万葉集における物色の表現」、日下雅義徳島文理大学教授「『万葉集』に河川の景を読む」。参加者は実数が九名、のべ一七人。

七月三十一日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信行日本大学教授）第六回研究会開催。藏中しのぶ大東文化大学教授が「平城万葉の仏教的基盤とその形成」を発表。

八月 二日 薬師寺夏休み寺子屋に、松尾光副所長が「古代における食事」と題して講演。

八月四～五日 第二回万葉古代学研究所主宰共同研究の第二回・第三回研究会を開催。発表は、嶋田義仁名古屋大学大学院教授。

八月二〇日 親子万葉教室で、井上さやか研究員が講師を務める。

八月二二日 親子万葉教室で、松田信彦研究員が講師を務める。

八月 七日 第一五回万葉古代学研究所講座で、上野誠副所長が

「ドングリで染めた衣―万葉びとの生活―」を講演。

八月二〇日～二五日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信

行日本大学教授）として、韓国調査。第七回研究会を  
実施。

八月二二日 友の会共催の「万葉集をよむ」で、井上さやか研究  
員が「讚歌様式の展開」を講義。

八月一九日 第一六回万葉古代学研究所講座で、松田信彦研究員  
が「日本書紀の神話」を講演。

九月二二日 友の会共催の「木簡をよむ」で、松尾光副所長が

「飛鳥池工房遺跡出土の天皇木簡」を講義。

九月一八日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信行日本大  
学教授）第八回研究会開催。木本好信甲子園短期大学

教授が「大伴家持四題―政治権力の動向を中心として  
・その反藤原氏的一生―」を発表。

九月一九日 万葉古代学研究所第一回委託共同研究「奈良県にお  
ける万葉古代学関連研究の史的研究」の公開シン

ポジウムとして、「万葉の旅ここに始まる」を開催。

橋本雅之皇學館大学教授・毛利正守大阪市立大学大学

院教授・垣見修司関西中央高校教諭・井ノ口史佛大

学非常勤講師・坂本信幸奈良女子大学教授が基調報告

をしたあと、乾善彦大阪府立大学教授・出田和久奈良

女子大学教授・影山尚之園田学園女子大学教授・館野

和己奈良女子大学教授・武藤康弘奈良女子大学助教授

がコメンテーターとなってシンポジウムを行なう。参  
加者は一一七名。

九月二四日 井上さやか研究員が美夫君志会万葉ゼミナールで  
「鳴く鹿を詠む歌―日中対照比較の視点から―」と題

して研究発表。

一〇月二七日 友の会共催の「木簡をよむ」で、松尾光副所長が  
「甲斐国の防人木簡」を講義。

一〇月二二日 國學院大學生涯学習オープンカレッジで、上野誠副  
所長が「万葉集の庭園と文学」、松尾光副所長が「古

代の庭園」と題して講演。

一〇月二二日～二七日 企画展「万葉集との出会い―万葉文  
化館コレクションから―」を開催。

一一月二四日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員  
が「海幸山幸神話①」を講義。

一一月 六日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信行日本大  
学教授）第九回研究会開催。梶裕史法政大学助教授が

「庭園宴遊と『自然』詠―大伴家持『布勢水海遊覧』  
歌群の一考察―」を発表。

一月二三日 井上さやか研究員が美夫君志会十一月例会で「弟上  
娘子の歌―恋歌の表現と物語的構成―」と題して研  
究発表。

一月二三日 第二回万葉古代学研究所主宰共同研究の第四回研究  
会を開催。発表は、後藤明同志社女子大学教授・松田  
信彦研究員。

一月四日 沈琳海外研修員が友の会講座で「文学作品の翻訳か  
らみた日中文化の違い」を講演。

一月六日 尼崎市中央公民館市民大学教養講座で、井上さやか  
研究員が「尼崎の万葉歌―古代の尼崎はどのように歌  
によまれているか―」を講義。

一月二二日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員  
が「海幸山幸神話②」を講義。

一月七日～八日 第二回万葉古代学研究所主宰共同研究の第五回  
・第六回研究会を開催。発表は、藤村久和北海学園大  
学教授・李岩（中国）中央民族大学教授。

一月二六日 友の会共催の「古事記をよむ」で、松田信彦研究員  
が「神武天皇東征の物語①」を講義。

一月二七日 尼崎市中央公民館市民大学教養講座で、井上さやか

研究員が「万葉集の魅力―万葉人はなにを感じどう生  
きたのか―」を講義。

一月二八日 松田信彦研究員が古事記学会分科会で日本書紀講読  
「巻四・欠史八代」を発表。

一月二八日 第二回委託共同研究（研究代表者・梶川信行日本大  
学教授）第一〇回研究会開催。藤原茂樹慶義塾大学  
教授が「流転する謡歌―催馬楽の質―」を発表。

◆専任研究員のおもな業績（平成十七年二月～平成十八年一月）

松尾光

〔著書〕

○『古代の豪族と社会』（笠間書院刊）、平成十七年三月。

〔研究論文〕

○「出雲市青木遺跡の出土木簡について」（『万葉古代学研究所年報』三三号）、平成十七年三月。

○「第一回万葉古代学研究所主宰共同研究報告・日本古代史の視点から／宴の場の成立」（『万葉古代学研究所年報』三三号）、平成十七年三月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」平成十七年二月～十二月。

○「吉士火麻呂の母」（『礫』二二〇号）、平成十七年二月。

○「蘇我氏の研究」（『月刊歴史読本』五十巻四号）、平成十七年四月。

○「大王権威の昂揚を目論む『対等外交』の演出」（『歴史群像』七十七号）、平成十七年五月。

○担当執筆「額田王秀歌鑑賞」（『女流歌人 額田王・笠郎女 人と作品』おうふう刊）、平成十七年九月。

○「大和三山と藤原京について」（『さわやかライフ奈良』二〇〇

五年秋号）、平成十七年九月。

○「天武天皇」「持統天皇」「文武天皇」「元明天皇」「元正天皇」（『月刊歴史読本』五十巻十一号）、平成十七年十一月。

○「倭姫王」「鷗野讚良皇女」（『月刊歴史読本』五十巻十二号）、平成十七年十二月。

○「歴史学と趣味」（『翔』四十八号）、平成十七年十一月。

○「甲斐国防人の木簡」（『歴研よこはま』五十七号）、平成十七年十一月。

○「万葉歌の魅力をさぐる⑤／蒔ける田・植ゑし田」（『天飛ぶ』十三号）、平成十七年十一月。

○「持統女帝の吉野行幸」（『礫』二二〇号）、平成十七年十二月。

松田信彦

〔研究論文〕

○「天皇即位表現から見た日本書紀本文の一側面」（『万葉古代学研究所年報』三三号）、平成十七年三月。

○「第一回万葉古代学研究所主宰共同研究報告・古代歌謡の視点から／古代歌謡における短歌形式の一側面」（『万葉古代学研究所年報』三三号）、平成十七年三月。

○「日本書紀における久史八代の性格」（『古事記年報』四十八）、平成十八年一月。

〔研究発表〕

○「日本書紀における欠史八代の問題―本文の性格をとおして―」

(古事記学会平成十七年度大会)、平成十七年六月。

○日本書紀講読「巻四・欠史八代」(古事記学会分科会)、平成十

八年一月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」平成十七年二月／十二月。

○「万葉歌の魅力をさぐる④／秋の気配」(「天飛ぶ」十二号)、平成十七年七月。

○担当執筆「茅上娘子秀歌鑑賞」(『女流歌人 額田王・笠郎女 人と作品』おうふう刊)、平成十七年九月。

○担当執筆「創世神話」など四項目(『古事記がわかる事典』日本実業出版社刊)、平成十七年十一月。

井上さやか

〔研究論文〕

○「上代語彙としての『しぐれ』」(『万葉古代学研究所年報』三三号)、平成十七年三月。

○「第一回万葉古代学研究所主宰共同研究報告・万葉研究の視点から／万葉歌における古代の発想と表現」(『万葉古代学研究所

年報』三号)、平成十七年三月。

○「山部赤人と風土讃歌の伝統―新しい讃歌の誕生―」(『高市黒人・山部赤人 人と作品』おうふう刊)、平成十七年九月。

〔研究発表〕

○「鳴く鹿を詠む歌―日中対照比較の視点から―」(美夫君志会万葉ゼミナル)、平成十七年九月。

○「弟上娘子の歌―恋歌の表現と物語的構成―」(美夫君志会十一月例会)、平成十七年十一月。

〔その他〕

○「産経新聞」朝刊／奈良版「万葉集と遊ぶ」平成十七年二月／平成十八年一月。

○「新刊紹介／真下厚氏著『万葉歌生成論』」(『美夫君志』第七十号)、平成十七年三月。

○共同執筆「口訳付高市黒人全歌集」(『高市黒人・山部赤人 人と作品』おうふう刊)、平成十七年九月。

○共同執筆「口訳付山部赤人全歌集」(『高市黒人・山部赤人 人と作品』おうふう刊)、平成十七年九月。

○担当執筆「巻四・五三二」「巻十六・三八二四」(『セミナー万葉の歌人と作品 第十二巻 万葉秀歌抄』和泉書院刊)、平成十七年十一月。